

摂津まつり振興会

2007年8月20日

会長 和泉 慎次 殿

要 請 書

日本共産党摂津市議会議員団

ことのほか厳しい暑さの中ですが、貴職におかれましては益々ご清栄のことと存じます。

また、先般開催されました「摂津まつり」では、暑い中での企画運営にご苦労いただきましたことに心から感謝申し上げます。

さて、今回の摂津まつりで、自衛隊コーナーが設けられ「軽装甲機動車」の展示、「災害復旧」と「国の安全を守る」自衛隊への入隊勧誘、グッズの販売が行われたことについて、抗議と改善の要請をするものです。

自衛隊は、いくら災害時の救助救援活動やイラクでの人道支援活動をアピールしても、武器を備えた戦力であり、戦争放棄、戦力の不保持を定めた憲法との関係で大きな矛盾を抱えた組織です。

この間、政府は憲法解釈の拡大により強行した法律で自衛隊の海外派遣を進めてきましたが、そうした政策に対して国民の中では賛否が分かれています。またイラク戦争についてアメリカ国内を含め国際的に「間違った戦争」という認識が広がる中、派遣された自衛隊指揮官が国内法を無視した武力行使を想定していたことも明らかになり、あらためてその存在と主張の矛盾が大きくなりました。

私たちは、「軍事」に未来と希望を託すのではなく、「外交」と「国際協調」によってこそ「平和」が築かれるということを確認するものとして、摂津まつりへの自衛隊参加はやめるべきだと考えます。

自衛隊の存在と主張に「異」と感じる多くの市民の声に耳を傾けていただき、すべての市民が、「摂津まつり」に「違和感」なく喜んで参加できますよう、次年度にむけ「装甲車」の展示を含め自衛隊参加について、見直されるよう要請いたします。